

竹野南地区変装おどり

令和元年度実行委員長 灰木 光男

その昔、台風の洪水で地蔵が竹野川に流れてきた。其のままにしておくのはおそれ多いと、道に上げて安置した。其の話を伝え聞いた腰痛に苦しむ造り酒屋のおじいさんが、

「わしの腰の痛いのを治して見せる！十日以内に治らなかつたら元の川に落とすぞ！」

と、期限を切つてお願いした。すると、一週間ほどで効果が現れ始め、十日目には若い頃と同じように酒を入れた角桶を持てるようになった。早速、岩のくぼみを整備してお地蔵さんを安置し、お経をあげて丁寧に祀った。こうして、梅田地区に「日限り地蔵」が誕生した。

おじいさんは、亡くなるまでの十七年間、毎年八月二十三日に子供たちを地蔵のもとに誘い、

「地蔵は子供をお守り下さるよ。」

「願い事を聞いて下さるよ。」

と、日限り地蔵の有り難さを説いた。次第に地蔵

さんの御利益が周知されるようになり、沢山の人がお参りし願いをかけるようになった。

一九三四年（昭和九年）、お地藏さんの供養に賞品付き変装踊りが住民の発案により梅田地区で始まった。だんだん他地区からの参加者も多くなり、盛大に開催されるようになった。時世に合わせた変装も盛んに行われ、皇太子殿下のご成婚（一九五九年）の年には美智子妃殿下に変装、東京オリンピック（一九六四年）の年にはオリンピックをテーマの変装も行われた。「源義経」など大河ドラマに合わせた変装も登場した。

梅田地区から始まった変装踊りは、世相を映しながら成長を続け、竹野南地区変装おどり実行委員会が主催する竹野南地区をあげての変装踊りへと発展し、今、八十五年の歴史を刻んでいる。

令和元年の変装おどりは、天候不順により竹野南小学校の体育館で実施された。

午後八時、白地に紺の裾模様の入った浴衣を着た「中座の衆」（囃子方と唄い方）による「練り

こみ」開始。「ヨイヨイ。」と掛け声を掛けながら、時計回りに一周し槽（今回は舞台）に上がる。一般の部の団体や個人、また年少の部などのカテゴリ毎に整列した変装を施した踊り方が先導に導かれて輪をつくる。八時五分には「本踊り」（ヤチャ踊り）が始まる。囃子方の三味線・太鼓・笛のリズムと、唄い方の張りのある唄声が生ではの臨場感と一体感を醸し出す。この三十分間の本踊りの間に審査が行われる。審査席に向かってアピールするパホーマンスも楽しい。踊り（十点）着想（四十点）変装（五十点）の配分で七人が審査する。

十分間の休憩の間に得点の集計と実行委員長の挨拶。再度カテゴリ毎に整列すると、審査結果の順位旗が渡され、順位旗を持って十五分間の「後踊り」が始まる。因みに、一般の部の優勝は四人のかぐや姫だった。後踊りが終了すると表彰式が行われ、変装踊りは終了する。

八十五年の歴史を刻む「変装踊り」は、人と人との繋がりが希薄になりがちな現代、コミュニテ

イづくりの核としての役割を担っている。

参考資料 「森本の盆踊りと変装踊り」

中嶋 奈津子 著

「日限り地蔵」

太田 垣 貞保 著